

2022 年度 白梅学園大学・短期大学 授業評価アンケート結果報告

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD 委員会

本学では教育の質向上を目的とした点検評価活動の一環として、授業評価アンケートを2002年度（大学は2005年度）から実施してまいりました。今年度授業評価アンケートでは、設問項目の一部見直しを行い、コロナ前の2019年度に近い形での設問項目にて実施しました。また、昨年度後期より学生に対するフィードバックを目的として、アンケート結果に対する教員コメントの実施を始めました。実施にご協力くださった先生方には、心より御礼申し上げます。

以下、本年度の授業評価アンケートの概要および分析結果についてご報告いたします。

1. 授業評価の実施主体

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD委員会

2. 授業アンケート評価の実施方法

(1) 授業アンケートの実施と結果分析

調査の実施および集計は白梅学園大学・白梅学園短期大学教務課が行った。なお、結果分析については、FD委員会が実施した。

(2) 授業アンケートの実施方法

ア. 実施回数および方法

年度内に2回（前期と後期）、ウェブ上（学生ポータルサイト）にて行った。回答は無記名受講学生の回答は昨年通り必須とした。

イ. 対象授業科目

全科目について実施（通年科目、実習指導関係の授業、ゼミを含む）。

ウ. 実施時期

実施期間は、前期・後期ともに約3週間。前・後期の実施期間・回答率は以下の通りである。

	実施期間	回答率	
		大学	短大
前期	2022年7月19日（火）～8月3日（水）	53.5%	78.3%
後期	2023年1月6日（金）～2月2日（木）	49.3%	61.6%

エ. 学生への周知

ポータルサイトから繰り返し周知を徹底した。

オ. 授業評価の結果公開

大学・短大全体の授業評価結果（全科目の総合集計結果）のみを本学HP上にて公開する。個別集計結果についてはウェブ公開しない。なお、教員各自が担当する科目の集計結果については、集計終了後に各教員に開示した。

3. 授業評価アンケートの質問項目（2021年度版。下線は今年度用に修正した項目）

（1）学生自身の自己評価

設問1（学習目的） 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。

設問2（学習態度） 私は授業をしっかりと受講した。

設問3（学習態度） 課題や試験の準備に真剣に取り組んだ（でいる）。

設問4（内容理解） 私はこの授業の内容を十分に理解することができた。

設問5（総合評価） 私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。

（2）授業担当者に対する評価

設問6（熱意態度） 教員は熱意をもって授業に臨んでいた。

設問7（授業運営） 教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。

設問8（授業方法） 授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。

設問9（基本項目） 教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。

設問10（学生対応） 教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。

設問11（総合評価） この授業の教員は総合的に評価して良かった。

（3）授業内容に対する評価

設問12（授業難易度） この授業は分かりやすかった。

設問13（授業進度） この授業の進め方のペースは適切であった。

設問14（教科書等） この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。

設問15（授業内容） この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。

設問16（総合評価） この授業は総合的に評価して良い授業であった。

（4）自由記述

設問17（授業内容・方法全般） 授業内容・方法や学生対応など、この授業で良かった点があれば挙げてください。

設問18（授業改善） 授業内容・授業方法・授業課題について改善点があれば挙げてください。また、実際に授業を受けてみて、困ったことがあれば挙げてください。

設問19（その他） この科目に限らず、本学の授業について意見や感想等があれば、挙げてください。

カテゴリー（1）～（3）の回答選択肢は、1：そう思う（5ポイント）、2：ややそう思う（4ポイント）、3：どちらとも言えない（3ポイント）、4：あまりそう思わない（2ポイント）、5：全くそう思わない（1ポイント）の計5段階評価とする。

4. 授業評価アンケートの結果報告

(1) 質問項目別にみる集計平均値 (大学)

設問 番号	質問項目	前期	後期	2021 前期	2021 後期
1	私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4.43	4.46	4.32	4.37
2	私は授業をしっかりと受講した。	4.59	4.58	4.53	4.55
3	課題や試験の準備に真剣に取り組んだ(でいる)。	4.59	4.56	4.51	4.55
4	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.39	4.41	4.27	4.31
5	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.52	4.52	4.43	4.46
6	教員は熱意をもって授業に臨んでいた。	4.64	4.65		
7	教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。	4.45	4.46		
8	授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。	4.51	4.52	4.44	4.39
9	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.56	4.58	4.43	4.44
10	教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。	4.58	4.55	4.46	4.39
11	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.57	4.58	4.46	4.42
12	この授業は分かりやすかった。	4.44	4.46		
13	この授業の進め方のペースは適切であった。	4.50	4.51		
14	この授業の教科書・配布資料・プレゼン内容は適切であった。	4.53	4.55	4.47	4.42
15	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.60	4.60	4.53	4.50
16	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.58	4.58	4.49	4.44

(1) 質問項目別にみる集計平均値 (短大)

設問 番号	質問項目	前期	後期	2021 前期	2021 後期
1	私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	4.51	4.43	4.33	4.34
2	私は授業をしっかりと受講した。	4.63	4.52	4.52	4.53
3	課題や試験の準備に真剣に取り組んだ(でいる)。	4.62	4.54	4.51	4.50
4	私はこの授業の内容を十分に理解することができ	4.47	4.41	4.32	4.32

	た。				
5	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.57	4.47	4.44	4.45
6	教員は熱意をもって授業に臨んでいた。	4.64	4.55		
7	教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。	4.52	4.42		
8	授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。	4.55	4.47	4.40	4.38
9	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.55	4.48	4.36	4.42
10	教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。	4.57	4.46	4.43	4.37
11	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.56	4.49	4.41	4.43
12	この授業は分かりやすかった。	4.48	4.40		
13	この授業の進め方のペースは適切であった。	4.53	4.46		
14	この授業の教科書・配布資料・プレゼン内容は適切であった。	4.58	4.47	4.43	4.41
15	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.59	4.51	4.48	4.46
16	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.58	4.51	4.44	4.45

前期の回答率は、大学が 53.5%、短大は 78.3%、後期の回答率は、大学が 49.3%、短大は 61.6%であった。大学における回答率がやや低いのが、大学・短大ともに前期は昨年度より回答率が増加している。後期については、例年回答率が低くなる傾向にあり、今年度は昨年度よりやや減少したことからも、授業内でのアナウンスの徹底と学生へのリマインドの時期について検討していく。

項目ごとの結果については、比較のため 2021 年度の結果を併記した。学生自身の自己評価、授業担当者に対する評価、授業内容に対する評価の 3つのカテゴリーの各設問項目において、前後期とも軒並みポイントが高くなっていることは注目できる点である。また、授業に関しては、コロナ禍に得られた知見等から学習管理システム (WebClass) の活用が一層促進されたことや対面授業による効果も相まって、このような高い数値結果になったと考えられる。ここ数年においては、前年度の数値を上回る高い数値が得られてきたところではあるが、今年度も概ね同様の結果となり、先生方のご尽力に心から感謝したい。

自由記述については、前期後期ともにそのほとんどが授業に対して好意的なものであったが、その一方で、課題や試験の多さ、オムニバスにおける教員間の連携、授業の出欠対応への意見、レポートやリアクションペーパーの提出期限についての要望等々が寄せられた。これらについては、科目担当教員が真摯に受け止めた上でコメントを返し、改善を図っていききたい。

(2) 授業改善に向けての今後の課題

授業評価アンケートにおける学生からのコメントには、様々な声があるのも事実である。多くは、授業者や授業内容に関する肯定的なコメントであるが、中には否定的に感じられるものもある。否定的なコメントは、読んでいても心地よいものではないが、全ての授業評価アンケートの結果に目を通すことで、各授業の更なる質向上への糸口が見つかることもある。なぜそのような評価となったか、もちろん、学生側の資質や態度等に起因する場合もあるが、全てそうとは言い切れず、自分では意識していなかった点に要因がある場合も考えられる。重要なことは、教員としての課題を明確にすることで、授業を改善したり、否定的な感想を回避したりすることが可能になってくるということである。

それぞれの先生方には、学生を4年間、2年間育てる過程の重要な授業をよりよくするために、授業評価アンケートの更なる活用をお願いいたします。また、FD委員会では、下図のような取り組みを通して、授業の質向上に取り組んでまいりたいと考えております。今年度の授業アンケートの結果報告やFD委員会の取り組みについて、ご意見等ありましたら、気軽にFD委員までお寄せいただけますと幸いです。

